

会議等の記録

会議名称等	茶生産者との意見交換会（報告）
日時	令和2年7月14日 10時～11時50分
場所	庁議室
出席者	茶生産者6名、鹿屋市側7名、計13名
趣旨・目的・議題等	<ul style="list-style-type: none"> ・茶をめぐる現状と課題について ・今後の方向性について
結果・まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・現状と課題について、忌憚なく様々なご意見がだされた。 ・今後の方向性については、振興会組織等で茶業の「出口戦略」、「茶の生産性」、「農家や工場の再編」等の課題を整理し、一つ一つ解決していくことを確認した。 ・課題整理の参考とするため、市のモニターによるアンケートを実施することとなった。
概要・主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウィルスの影響は大きく、数年は茶相場の回復は見込めないとの意見があった。 ・JA鹿児島きもつきに対し、茶業センター整備や、営業強化を求める意見があった。 ・鹿屋市に対し、曾於市で検討中の「中切り」実施に対する助成の実施を求める声があった。
議事録	<p>中西市長（以下、市長）</p> <p>今日の主旨としては、茶業全体が厳しい状態にある、コロナでイベントも中止になり、販売が思うようにいかず、一番茶の値段も低く、三番茶は出荷しないと聞いている。</p> <p>非常に厳しい状態であるが、もともと数年来、低下傾向にあり、V字回復に向けた方策がない状態である。</p> <p>今後、どうするのか、ペットボトル用で行くのか、深蒸し茶ブランドでいくのか、輸出を検討するのか、料理等の原料用とするのか、販路、多様化、機能性の面で色々な課題がある。</p> <p>鹿屋市として、深蒸し茶は大きなブランドである。JAも入って語るのがいいかもしれないが、そこは別の機会で検討することとして、生産者、行政、JAは連携してやっていく必要がある。</p> <p>本日は忌憚なく、前向きに、建設的な意見をきかせてほしい。</p> <p>生産者A</p> <p>コロナの影響は値段に直ぐきた。とにかく、販売機会が無い。大半の方の売上が半減していると思う。</p>

生産者 B

去年が最安値と考えていたが、今年はずっと悪い。二番茶途中で（三番茶の）生産調整の連絡があったが、二番茶についても採算が合わない状態となり、経営する 11ha のうち、4ha は切捨てることになった。来年 4 月まで収入が無く、残り 9 カ月はどうしようかという状態。

曾於市では中切りした茶園面積に応じて、2 万円の助成をすると聞いており、鹿屋市でも同様の事業ができないか。

生産者 C

今年は盆も正月もないというような状況、今年 1 年、残り半年をどう乗り切ろうかというところである。国の支援などに取り組んでやっているが、経営資金、経費、肥料代を切り詰めてやっていけないといけな。

来年以降も厳しいと見込んでいる。流通が変わらないと厳しい、輸出も言われるがバイヤーだけが儲かっている気がする。全体の底上げ、日本の茶の流通を変える必要がある。

生産者 D

今年は経営が悪いが、従業員には給料を渡さないといけないので、自分の分の給料は夜のバイトで稼いでいる状態。

息子が後継となるために、農高に行きたいとあったが、工業高校に行くように勧めている状態である。昭和 7 年に祖父が始めたが、続けられるかどうかという状況である。

曾於市が検討している事業は、鹿屋市でもお願いしたい。

生産者 E

高校を卒業し、外に出て就職した後に帰郷し、茶を初めてから 15 年になる。リーフ茶離れもあるが、ペットボトルも K-GAP ではダメである。AsiaGap への移行を検討しているところである。

生産者 F

今年は新茶祭りが開催できず、PR が出来なかった。市で新茶祭りを開催してもらい、150 袋（100 g）以上販売できて大変助かった。PR や茶販売後の後先が見えないのは課題だと考えている。

学校給食提供による消費拡大を検討していただければと考えている。

以後、市長の進行による自由討論（フリートーク）

市長

- ・現在やっている三番茶以降を取らないという、生産調整は一過性のものである。
- ・来年はどうなっていくのか、この先数年はどういう方向なのか、中長期の戦略・見通しはどう考えているのか。
- ・国の次期作支援については取組めば良いが、その後の方針はどうするのか、インテグレート化して、生葉卸に注力するのか、品質を高めてブランド化するのか、流通の話があったが流通をどうするのか、そういうことを考えなければ、お金が残らない。
- ・5年、10年先の見通しを聞かせてもらいたいところである。

生産者 A

- ・茶商との話で今年の安値については申し訳ないという話があった。
- ・三番茶の生産調整については、三番茶の産地としては全国の9割が鹿児島であるから、在庫が減らせるだろうという見込であるようだが、本来は生産協会が、秋冬番はどうするのかという議論をし、他の産地とも連携を図られなければいけない。
- ・在庫については、今年開催予定であったオリンピックに備えて、茶商もドリンクメーカーも大量に保管している状況で、理事会でもあったが、再来年迄は厳しい状態と考えている。

市長

- ・他の方はありませんか。茶の未来はどなっているのか、何かの光明があるのか、県が言っているのは輸出であるが、難しいのではないか、有機栽培とセットになるかともおもうが。

生産者 C

- ・輸出もあるが、市場利用のみに拘るべきではないかとも考えている。
- ・去年、一昨年から県OBの助言もあり、地元市場での販売も重要と考えている（地元で地元の茶が飲まれていない）が、JAへのセンター整備、販売強化、付加価値づけ等の要望事項が進んでいない。
- ・三番茶も自粛要請があったあとに、（タンニンが多く含まれるので、業者が欲しがっているので）採取して欲しいとの要請があったりして、迷走感がある。
- ・JAがしっかりしていないから、量に走り、質が悪くなり、売れ残りが発生する。JAが頑張っ、出口を作っ欲しい。

・単発の取組として、東京で販売しても、「これは何処で買えますか」に対応できない。Dew やスイーツコンテスト等、色々と取組んだが数字に出てきていない。

市長

・小ロットの取組はメインとなりがたい。やはり、荒茶の市場出しがメインなのか。

各氏

・個々の経営で異なるが、概ね9割以上が荒茶での市場出し。生葉は1割程度になった位で、仕上げ茶としての出荷はごく少数。

市長

・市場出しは、茶商次第で価格決定権がないところはあるが、品質を上げるのが大事か。ドリンク茶はどうなのか。

生産者B

・ドリンク茶の方が良い場合もあるが、相手次第なのは一緒である。今年は契約が7割位になった。

・農家は弱い。売り上げはともかく、手許にはあまり残らないと聞いている。

市長

・見栄えが良いところが、本当に良いとは限らないのは、茶業に限らない。

・ドリンク用もあるが、やはり市場が大事なのでは。

生産者C

・永年作物であるから、芋等の他の作物とは違い、変化に弱い。

・県としても、拡大を目指してきたが、今年は静岡が生産調整に入ったため、生産量は鹿児島が日本一になったかもしれないと考えている。

市長

・日本一の先に何があるのか、値段は品質だけでは決まらない。相場や受給のバランスで決まるものである。日本一の生産量=日本一豊かであるのなら良いのだか。

生産者 A

- ・茶市場が中心なのは間違いない。生産者によっては、高品質、高付加価値での販売が出来ている。

市長

- ・玉露は有機か（有機であるとの回答有り）、ドリフトの問題があるので、台地では難しいのでは。（そう、永小原ならとの声有。）
- ・現在、鹿屋市の栽培面積の平均は7haと聞いているが、中途半端な面積。100haとかの世界にならなければ、（量、質）どちらに行くのか。

生産者 C

- ・後継者がいない農家の畑を一括で引受け、生葉組合を検討する等している。

市長

- ・良い事である。大きい話、そういう形の取組はしっかりと支援していく。
- ・再編自体を市が推し進めるということはないが、自発的な動きは支える。

生産者 A

- ・工場は鹿屋市で4～5箇所ですり足りるのではと考えることもある。
- ・長期の低迷相場により、工場の維持は難しく、更新はできなくなりつつある。コロナの影響は大きいですが、流れは一緒。

生産者 B

- ・茶工場、面積の集約は大事である。
- ・10年後は、茶農家が市内で10件程度になっていく可能性もある。

市長

- ・茶業振興会としての方向性があれば、支援はしやすい。
- ・皆さんがこれまで作り上げてきた茶業をどうしていくか、若い人の考えはどうか。

生産者 D

- ・1農家100haという経営規模の考え方もあるが、そうなると鹿屋市は3箇所ですり足りる事になる。

市長

・お金が無いというのではなく、アイデアを出していく必要がある。

生産者 C

・仕上げ茶工場は大事、運賃や手数料は生産者としてはそこまではない。手数料は以前は 0.5% だったが、農協が合併し 0.75% になった。錦江町は 1% が 0.75% と下がった。

生産者 B

・運送料や手数料については、そこまで言うことは出来ないかなという気がする。

生産者 C

・今年は三番茶もなくなり、運送会社や油屋、機械屋にも謝りを入れた。関係の人があってやっているのだと実感した。

市長

・いろいろお話がでたが、「出口戦略」、「茶の生産性」、「農家再編」等のテーマに絞って語ったほうが良い。

生産者 C

・かのや漁協のカンパチは良いと聞いているが。

市長

・カンパチが良いのも外的な要因が大きく、価格決定権があるわけではない。

・彼らも 1 匹丸々ではなく、加工しやすい「ロイン」で出すとか、相手方の要望に応えるため「ブリ」「ヒラマサ」に取り組むとか、色々やっている。

・漁協という組織なので、営業がいたり、店を出したり取り組んでいるところである。皆で取り組むのが大事。茶業振興会は任意団体なので難しいかもしれないが。

生産者 C

・それをやるのが JA で旗をふって欲しいのだが。

生産者 A

・JA も取扱いの品が多すぎるから。

市長

- ・テーマを深堀していく必要がある。観光茶園等があっても良いのでは。
- ・ビワ茶、桑の葉茶、モリンガ茶、選択肢が増えて、古くからの茶が減っているところもある。パンを食べるときはミルクやコーヒーで、お茶は選ばれない。日本食の減少の影響も多いのでは。

生産者 A

- ・リーフ茶のみではなく、経営の幅を広げる必要があるかもしれない。南薩では人参、ごぼう等の耕種作物に取り組んでいるし、静岡の JA 大井川では、お茶の人がレタスをやっている。

市長

- ・皆さんは土づくりに長けているので、耕種取り組みも可能なのではないか。鹿屋でやっている人はいるか。

生産者 B

- ・私はサツマイモを作っているが。(外はいない)

市長

- ・複合経営でシナジー効果を出すか、農閑期であればやれるのではないか。
- ・この前、吾平で話をしたが、単独の業態だけでなく、洋服店がクリーニング受付代行をする等して、機能と業態を集約している。そうでなければやっていけない。

生産者 D

- ・確かに、錦江では雇用対策として大麦若葉をやっていると聞いたことがある。

市長

- ・やれることはやっていく必要がある。お茶だけで生活できるの理想であるが。いま値段はいくらくらい、1,000 円ちょっと(昔は 3,500 円/kg という声あり。)、副市長からは何かありませんか。

副市長

- ・全体の設計図が必要だとおもう。青写真を描いて、農家さん達自身が何をやりたいかを聞いて、専門家も招いて意見を聞いてみてはどうか。国の補助事業もある。
- ・本来は JA の仕事な気もするが、JA がしてくれないでは進まな

いので、我々も手伝うので、頑張ってください。

市長

・ 出口という言葉が先程から出ていたが、出口とは何か、仕上げ茶のことか。

生産者 C

・ 経営を安定化させることが出来る特定の取引相手等である。

市長

・ 荒茶で出せるのか

生産者 C

・ 仕上げ茶として出す必要がある。そのために、仕上げ茶工場（再生工場）が必要という話なのだが、5億円という建設費の話になると、JAは茶業センターの売上が3,000万円しかない事を以て、渋い返事である。茶業センターではなく、茶自体の売上を考えて欲しい。

市長

・ 仕上げ茶の販売には、リスクやコストがかかる。設備投資、販売の手間がかかった上に在庫を抱えることもある。

・ 別の業種では、吾平のピーマン農家に独自ルート開発を提案したことがあるが、販売や売先はJA等に任せ、自分たちは品質・数量に拘るという回答だった。煎餅やペースト等の加工品にしたら、販路は狭まってしまうこともある。サツマイモについても、焼き芋にしたら焼き芋としてしか使えない。

・ リスク分散されているという面もあるので、仕上げまでやるかということは、よっぽど考えないといけない。

生産者 E

・ GAP の取組もやっていくが、お茶の機能をもっと発信できればと考えている。

市長

・ 私も茶がコロナに聞くといいたい。ここ（ノド）まで来ているのだが。

生産者 A

・ 業者も研究しているのだが、言えるところまでではないとのこと。

副市長

・ GAP の取組も単独の取組ではなく、業者や団体と一緒にやっていくことで負担が軽減できる。

市長

・ GAP はいくら位かかるのか。

生産者 C

・ K-GAP 5,000 円、J-GAP 300,000 円 G-GAP 800,000 円。手数料等高い。契約の縛りが 5 年あるので、G-GAP は高い。

市長

・ 茶市場に課題があるのか。

生産者 A

・ どちらかといえば、茶商寄り。
・ 粉引（3～5%の重量を実重量から引く習慣）を辞めて欲しいとの声がある。

市長

・ 市場の在り方については、あまり踏み込むことはできないところである。
・ 大隅での輸出の取組はどうか。

生産者 C

・ 大隅半島の首長さんや議員さんの方で計画があるとも聞いた。
・ 何処がやるのか不明である。

市長

・ アメリカは抹茶文化であり、若干トーンダウンしているようだ。

生産者 A

・ 世界では茶の需要はありますよということ。

市長

・ 輸出はそれ用の仕様が必要であり、余っているから輸出したらというような、気軽なものではない。茶は比較的しやすいのではあるが。

生産者 C

・残留農薬の検査代は高いが、輸出がしやすい商品というのはそのとおりである。

農林水産課

・その他ご意見はありませんか。

生産者 F

・お茶はバラ園やサルuggaでも売っている。ネット販売もしてもらえたら。

・学校給食での取り扱いを増やしてもらえればとおもいます。

市長

・地元の食材は割高になるが、そういう働きかけはしていきたいと考えている。

・例えば茶をミルクで割るというのはないのか。

生産者 C

・抹茶オレはあるが、保存性を高めるため、砂糖が大量に入る。健康的にどうか。

市長

・何をやっていくかという事は、検討していく必要がある。

・世代交代や経営体質の改善も含めてやっていきたい。

・自分達の考えていることと、世間のニーズがずれていることもある。

・市に 200 名モニターがいるので、担当と協議して、一度アンケートをとってみてはどうか。

例えば、急須で飲むことがあるか、どんな時に飲むのか等

・鹿屋でお茶ペットボトルを作っても良いかもしれない、農高の青春 100%みたいに。

市長

・茶業の面白さはどこにあるか。

生産者 F

・製造過程が面白い。

市長

- ・農大は2年。その後は修行に出したほうがいい。長さは程々で良いが。
- ・継ぐと言われたら辞められなくというのはあるが、嬉しいことではある。
- ・人材は外部からの来る人も大事だが、畜産やお茶は資金が必要なので、親元就農を大事にしたいと考えている。
- ・皆さんと久しぶりに会えてよかったです。まず何からやるか、一つずつ具体化していきましょう。我々も手伝っていきます。
- ・本日はありがとうございました。